

Title	「お菓子工場に変身した商業高校」：廃校施設を有効活用する取り組み (2)
Author(s)	樋口, 元信
Citation	年次学術大会講演要旨集, 30: 810-814
Issue Date	2015-10-10
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/13398
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般講演要旨

「お菓子工場に変身した商業高校」～廃校施設を有効活用する取り組み（2）

○樋口 元信 （株式会社山口油屋福太郎）

1.はじめに

文部科学省の調査によると、廃校となる公立学校（小・中学校、高等学校及び特別支援学校）は毎年400～500校であり、調査以来20年間で6,834校にのぼる。同省は廃校施設等の活用として、『みんなの廃校』プロジェクト」と称し、民間企業・NPO法人などに情報を提供することで、廃校施設等の情報と活用ニーズのマッチングを行っている。

前回の発表では、福岡県にある株式会社山口油屋福太郎が北海道で廃校となった小学校を食品加工工場として活用する事例を述べた。その後も同社の生産力を増強する計画があり、この度福岡県添田町の廃校となった商業高校を再び食品加工工場とすることになった。これら一連の活動が認められ、平成27年3月に中小企業庁「がんばる中小企業・小規模事業者300社」として選定された事例を報告する。

2. 北海道での工場稼働、そして新たな挑戦

同社は創業107年を迎える。当初、食用油の製造業を主事業としていたが、スケールメリットを活かす価格競争では事業継続が困難であると判断し、昭和40年以降は食品卸業を始めるようになった。昭和50年に新幹線が博多駅まで開通する時期に、辛子明太子の製造に着手し、現在では福岡市近辺に200社はあると言われる辛子明太子業界においても5位に入る程の存在感を示すようになっていった。老舗に分類される企業であるが環境変化適応力があり、飲食店や温泉施設も運営するなど、多角的な経営形態をとっている。

近年は辛子明太子業界の市場規模は縮小傾向にあり、同社もその影響は避けられなかった。数々の商品が開発されていったが、その中で常温の辛子明太子の開発時に生み出されたフリーズドライ製法とせんべいを組み合わせた辛子めんたい風味せんべい「めんべい」という商品を生み出すに至った。これは辛子明太子製造でつちかった製造技法と、食品卸業で積み重ねた知識が組み合わせられた結晶といえる。15年前に初めて作られた「めんべい」は着実に博多おみやげとして成長していった。

売上の伸びと天候不順による減産により原料であるばれいしょ澱粉の安定調達が困難となり、国内の主力産地である北海道の小清水町にまで問い合わせることになった。それから後の一連の流れを昨年の年次大会において、同社が原料調達と生産量増強を目的として、北海道の廃校となった小学校をお菓子工場として再生させた事例として報告している。

しかしながら、同社のお菓子事業は順調に伸びゆく中で、再び生産力の強化が求められることとなった。既存の福岡第一工場は英彦山にあるが、当地区は耶馬日田英彦山国定公園に指定されており工場の増床は不可能であった。その折、廃校となっていた旧県立田川商業高校跡の利用が添田町より提案があった。拡大する市場に対応するだけでなく、地方色のある食材を利用したご当地商品の開発や地元の雇用を通じて、地方創成の起点となるべく、同社の新たな挑戦が始まった。

3. 過疎化する地域

本発表の舞台である添田町は福岡県の東部に位置し、大分県と隣接する。福岡県人口移動調査結果報によると、福岡県は国内でも数少ない人口の増加を示す県であるが、それは福岡地域のみで残る北九州・筑後・筑豊地方は減少を示している¹⁾。特に、添田町は増田寛也著「地方消滅」（中公新書）で2040年に消滅可能性が高いとの指摘を受けている²⁾。かつては筑豊炭田から産出される石炭をもとにした鋳工業によって栄えていたが、1970年代以降エネルギー革命が起こり、炭鉱が閉山していったため過疎化が進行していった。ピーク時には25000人いた人口も現在では11000人と半減し、少子高齢化が顕著である。小中学校も統廃合されて、町内に唯一あった田川商業高校も2005年3月に廃校となった。同校は周辺3校と統廃合され、現在は福岡県立田川科学技術高等学校となっている。

廃校となった校舎を有効利用すべく、文部科学省は「～未来につなごう～『みんなの廃校』プロジェクト」という名称で、活用方法、利用者などを募集している廃校施設等の情報を集約し、ホームページ上で公表している（図1）。ここで一元的に公表し、多くの民間企業・学校法人・NPO法人・社会福祉法人・医療法人などに情報提供ができ、新たな活用ニーズが生まれるなど、廃校情報と活用ニーズのマッチングの一助になっている。このような努力が実を結び、平成14年度から平成23年度に廃校となり建物が現存する4,222校のうち、7割を超える2,963校が、社会体育施設、社会教育施設、体験交流施設、文化施設、老人福祉施設、保育所などの児童福祉施設、民間企業の工場やオフィスなど、様々な用途に活用されつつある。

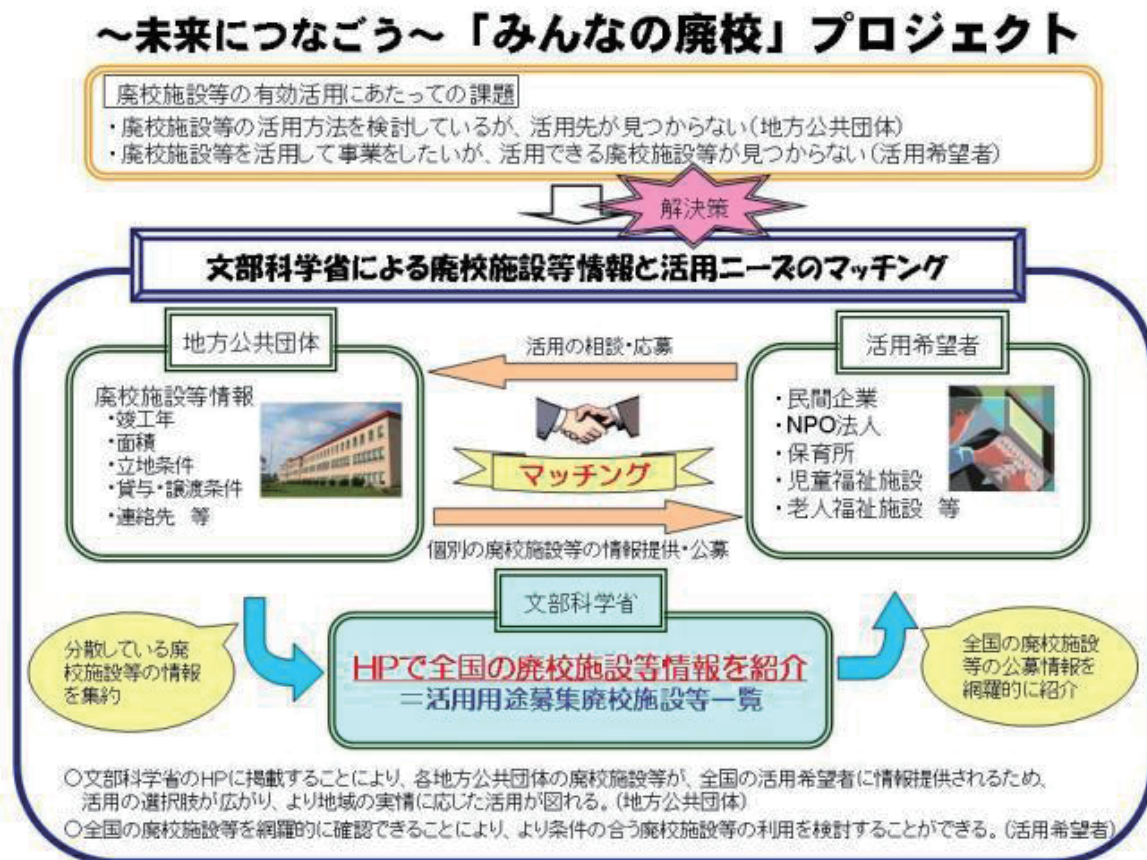


図1. 「みんなの廃校」プロジェクトの概要

廃校施設等の活用による利点は

- 学校施設を活用することで、同規模の建物を建設する場合と比べて初期投資の節減が期待できる
- 地域に密着した事業を展開する際に学校施設を拠点とすることで、地域の理解が得られやすい
- 「学校施設の再利用」という形の地域貢献が達成できるといったことがあげられる。

4. お菓子工場に変身した商業高校

同社が添田町に工場を設立するのは、下記のような利点があった。

- (1)既存工場（英彦山）と近いため相互補完的な生産
- (2)北海道工場があることで、生産リスクの分散及び販売機会ロス解消（BCP対策と売上高増強）
- (3)平野部にあるため、従業員は通勤しやすく、物流の計画が細かく設計が可能
- (4)地方特産品を用いた「ご当地めんべい」の開発及び雇用創出などによる地域活性化への寄与

平成25年5月に福岡県立ち会いのもと、添田町と立地協定を締結し、本計画は具体的に進行することとなった。北海道工場と福岡第一・第二工場とはそれぞれ強み・弱み・課題等をお互い補完しあう三位一体の体制、即ち、事業連携構想の枠組み（パッケージ）がより強固になったと言える（図2）。

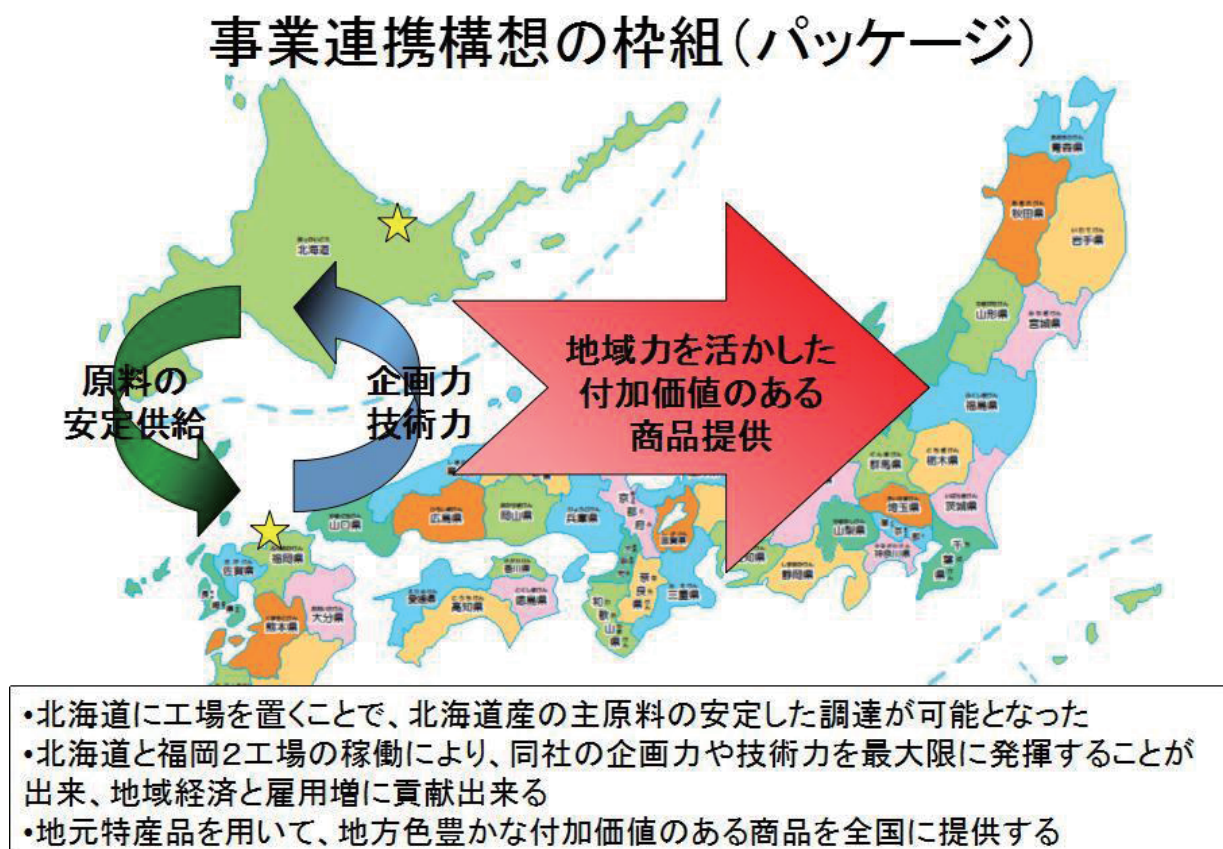


図2. 事業連携構想の枠組み

こうして「お菓子工場に変身した商業高校」が現実のものとなった。その外観と内装を図3に示す。学校という思い出深い場所ということを鑑み、工場内の見学コースは教室の温もりを思い起こすような作りとなっている。これは、工場運営の基本方針「地域とともに共存し、地域とともに共栄する」という意志を示したいという同社の経営層からの強く熱い思いからである。



図3. 添田町工場の外観（左）と内装（右）

工場設立にあたっては7億円の投資が必要であるが、企業立地促進交付金の助成並びに不動産取得税と固定資産税で、手厚い軽減措置が得られた。雇用の面でも、企業立地促進条例に伴う補助金が一定期間得られることになった。これら行政サイドの助成策により、初期投資と税制面の軽減額も大きかった。地域の協力も厚く、地元路線バスである西鉄バスからはこの工場までバス路線の延伸の申し出をいただいた（図4）。

本工場の稼働により、40名の雇用に創出した。北海道から始まった廃校利用の事例は、一連の流れとしてマスコミにも取り上げられることとなり、同社は広く知られるようになっていった。

Information

西日本鉄道株式会社 広報室 Nishitetsu Group
http://www.nishitetsu.co.jp/

<平成26年10月30日発表>

西鉄バス筑豊 行先番号10番「後藤寺～添田」線
添田町「めんべい」工場へ乗り入れ
運行初日の11月8日（土）にはセレモニー実施

- 西鉄バス筑豊(福岡県飯塚市、社長:清野俊秀)では、平成26年11月8日(土)より、路線バス「後藤寺～添田」線(行先番号:10番)を延伸し、「めんべい」添田町工場(福岡県田川郡添田町添田)への乗り入れを開始します(認可申請中)。
- 「めんべい」は、岡山口油屋福太郎が製造・販売を行っている、福岡みやげとして大変人気のお菓子です。同社が本年7月、地元からの雇用創出や地域振興を目指し、旧田川商業高校跡地を活用して「めんべい」工場を開設されました。添田町も、町の活性化に大きな期待を寄せています。
- 今回、添田町側の起終点「伊原(いばら)」バス停から、新設するバス停「めんべい添田町工場」間を延伸し、平日15往復、土曜・日祝日14往復の乗り入れを行い、工場従業員の方や、工場見学に訪れる方の利便性向上を図ります。
- 乗り入れにあわせ、運行開始初日には関係各位にご出席いただいたの出席などセレモニーを開催するほか、当該路線バスにご乗車いただき「めんべい添田町工場」でお降りのお客さまに、岡山口油屋福太郎様より「めんべい」と添田町より特産の「桃ジュース」をプレゼントいたします。

■ 路線バス「後藤寺～添田線「めんべい添田町工場」への乗り入れについて

【運行開始日】平成26年11月8日(土) ※関係機関へ認可申請中

【該当路線】後藤寺～添田線(行先番号:10番)
西鉄後藤寺～後藤寺バスセンター～池尻～川崎役場通り～
～添田駅前～オークホール前～添田駅～伊原～めんべい添田町工場

【実施内容】上記路線において、平日早朝の「伊原」発西鉄後藤寺行きのみを除く全便「めんべい」添田町工場へ乗り入れます。
※ 路線延伸に併せて実施する区間時分の見直しに伴い、「添田駅」「添田駅前」間バス停の発車時刻を変更いたします。その他バス停の時刻、および運行便数は変更ございません。また、一部バス停の名称変更を実施いたします。詳しくは、当該路線バス車内およびバス停に掲出いたします「お知らせ」をご確認ください。

【運行本数】平日15往復(30便)、土曜・日祝日14往復(28便)

主な区間の運賃・所要時間	区間	運賃	所要時間
後藤寺バスセンター～めんべい添田町工場		430円	33分
	添田駅～めんべい添田町工場	150円	6分

図4 地元路線バスからの協力

5. 工場完成の実績および今後の展望

北海道の工場では、現在、年間売上金額 4 億円、雇用者数 40 人の事業となっている。当地で得られるばれいしょ澱粉により、原材料不足による生産数量の制限が無くなったことは、事業全体に大きな価値を持った。北海道と第二福岡工場の稼働により、お菓子部門の直近3年の売上高は毎年30%もの成長を示しており、今年は27億円を見すえている(図5)。同社は既存の製品だけではなく、世界遺産の審査対象となった沖ノ島のある福岡県宗像市発でとれるわかめを用いた「わかめめんべい」や長崎の鯛を用いた「鯛めんべい」など、各地の特産品を入れたご当地商品の開発にも力を入れている(図6)。

北海道や福岡県で廃校となった学校校舎を食品加工工場とし、それぞれの地で40人の雇用を生み出すだけではなく、地方の特産品を利用することで製品を通じた情報発信をすることは、自立する地方を期待する地方創成のあるべき姿である。これら一連の活動が認められ、同社は平成27年3月に中小企業庁「がんばる中小企業・小規模事業者300社」として選定された。

6. 謝辞

本計画の実行にあたり、福岡県と添田町に多大なるご協力いただいた。深く感謝の意を評す。

参考文献

- 1) 福岡県の人口と世帯年報—福岡県人口移動調査結果報告(平成25年10月～26年9月) —
- 2) 地方消滅(中公新書) 増田寛也

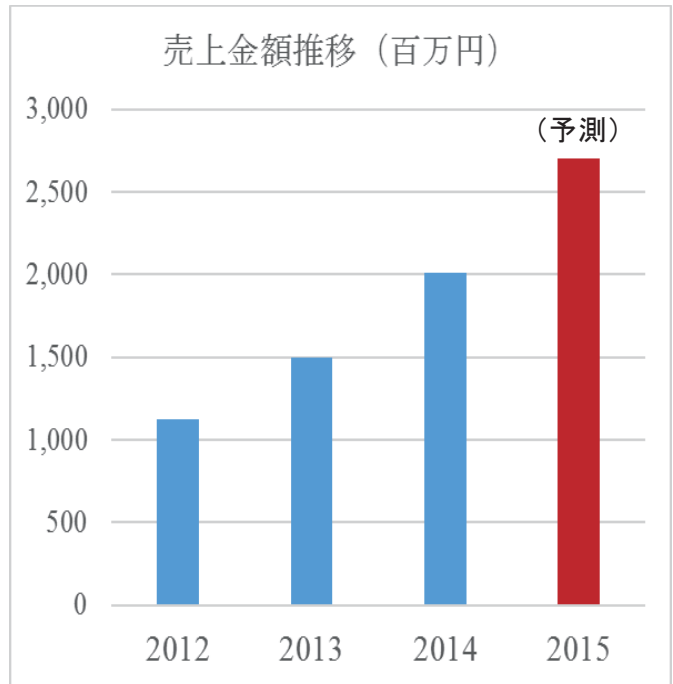


図5. 同社のお菓子部門売上金額推移

応募すると **抽選で福太郎商品が当たる!!**

めんべい総選挙

ありがとう15周年キャンペーン

キャンペーン期間 **2015年8月1日(土)～8月31日(月)まで**

お好きなめんべい一つを選んで投票にご参加下さい。
抽選で福太郎商品が当たります!

①めんべいプレーン 発売以来の エース!	②めんべいねぎ 子供 大好き	③めんべいマヨネーズ マヨラーには たまらない!	④勝つめんべい 勝負の時は これに限る!
⑤めんべい辛口 新世代辛党	⑥めんべい玉ねぎ 辛いだけが めんべいじゃない	⑦宗像わかめんべい きり塩も 応募!	⑧長崎鯛めんべい 鯛が入って 旨いタイ!
⑨くるめんべい くるっもち たまげる 美味しさ	⑩官兵衛めんべい めんべい? 黒田 官兵衛	⑪東京スカイツリー® めんべい 東京から 参戦!!	

図6 めんべい商品一覧(同社キャンペーンより)